

2011年 6月3日 東大 駒場リサーチキャンパス レポート (南賢司)

東大には「高校生のための金曜特別講座」(<http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/>)という公開講座があります。ホームページ上では「東京大学教養学部(目黒区駒場)では、高校生を対象とした公開講座を開講しています。高校生諸君の勉学意欲を高める一助になればと、教養学部教員が学問研究の面白さや重要性を分かりやすく解説します。進路について考えている高校1、2年生にはとくに聴講をお薦めします。高校生だけでなく、一般の方々のご参加も歓迎いたします」と説明されています。講義リストに掲載されているものであれば、6月3日は「古くて新しいガラスの科学と技術—メソポタミア文明からブループラネットの未来まで—」、6月24日は「笑って考える少子高齢社会」となっています。一度はこの公開講座に参加しようと思っていてホームページを眺めていると、「駒場リサーチキャンパス公開」という案内に目がとまりました。初めて聞く言葉でしたが、東大を知るためのいい機会だと考えて参加することに決めました。このイベントに参加して、その後に公開講座を聴講する目的で6月3日に駒場キャンパスを訪れてみました。今回は、このイベントに参加したレポートを寄稿しますので、興味のある方はご一読ください!



駒場リサーチキャンパスの風景(高校生の見学者が多かったです)

この駒場リサーチキャンパスではいろんな講演が行われているのですが、午前の講演はあまりに早起きしないといけないので体に悪いと考えて、13:00~13:50までの「中東政治大変動のリスクとチャンス」を聴講するために8:00ぐらいに家を出て東京に向かいました。やっぱり最新の政治状況をその道の人に教えて頂けるなんて貴重ですね。

最近では何度も受験応援のときに駒場キャンパスを訪れているので、駒場東大前駅まで行くのは慣れてしまいました。しかし、今回は普通の駒場キャンパスではなく、駒場リサーチキャンパスなので、駅に着いてからは新しい道を歩いてキャンパスを探すことになります。あんまりよくわからなかったのですが、東大の優秀そうな学生の跡をつけていったら見事迷わず到着です。何食わぬ顔して見学しようと思ったら、無料なのに受付が必要で、名刺はなかったので紙に名前だけ書いて構内に入ることができました。そのときに、「構内を歩くときはこれを首に掛けて歩いてください」と言われ、プレート的なものを頂きました(下の写真)。



キャンパスの見取り図が書いてあって、迷ったときはすぐに確認できるようになっています

そのプレートをかけて、「中東政治大変動のリスクとチャンス」が行われている会場に意気揚々と足を運び、13:00 ぎりぎりに到着。「何とか間に合った～」と思うやいなや、「担当教授が体調不良でこの講演はキャンセルになりました」の言葉が受付の学生から発せられます。「そんな馬鹿な…。一番楽しみにしていた講演で関西からわざわざ聴きに来たのにー！」とは心の声です。そんな不満を押し隠しつつ、宙に浮いた時間を埋め合わすべく、食事の時間にすることにしました。いろいろと食べるころはあり、迷走することになりました。なぜかイタリア的なところが二軒ぐらいあって、たいしておいしそうにも見えなかったのですが、とりあえず食べるために入ってみます。牛すじのカレーと貝類入りのパスタの二つしかメニューはなく、牛すじのカレーを注文すると、すでに終了していて貝類入りのパスタしかないと言われます。貝類なんて口に入れる想像をするだけでも気を失いそうなので（南は貝類も苦手なのです）、そそくさと立ち去ることにします。もう一軒のイタリア的な店も、もう何を頼もうとしたかも忘れてしまいました。長い間待たされたあげく、食べたい料理が品切れだったので店を出ることにしました。最終

的には普通の学食に落ち着きました。やっぱり学食は最高ですね。質素だけれども意外においしい！ロールキャベツ定職を食べました。



ひそかにプレートの形がいい感じです。

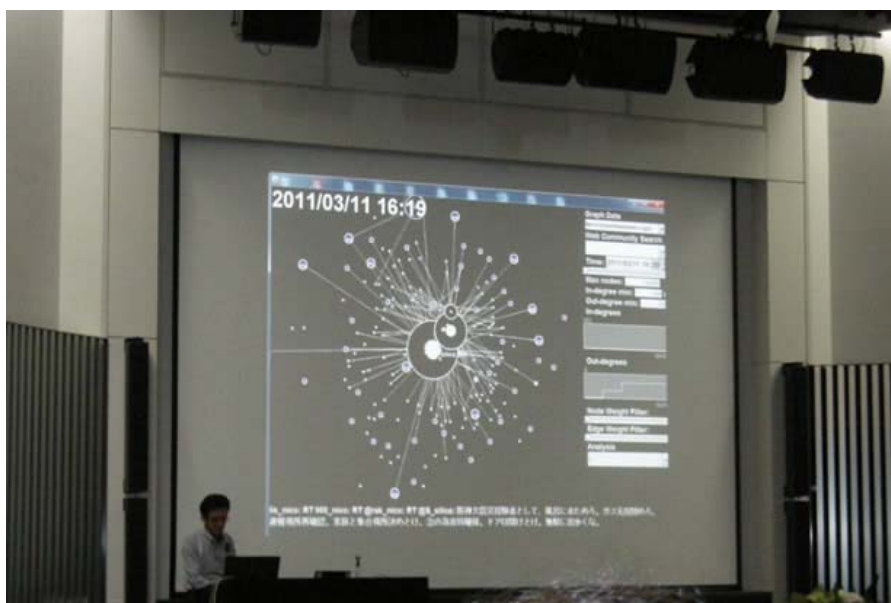


いたってシンプルな食堂。食器返却口ではお皿を水洗いしてから返却します。

意味不明な食堂巡りをしているおかげで変に時間がかかってしまい、次の講演に間に合わなくなりそうになりました。急いでロールキャベツを食べて、「サイバーフィジカルサービスと明日へのIT」の講演を聴きに行きます。もともとサイバーな人間ではないのですが、講演の内容は

とても面白いものでした。東日本大震災をテーマに、ツイッターとブログの最近の変化が語られ、「募金をするべきだ」というつぶやきがどういうふうに広がっていくかの検証がなされていました。草の根の市民が何人も「募金をするべきだ」というつぶやきをするよりも、一人の有名人が「募金をするべきだ」と言った方がはるかに速く人々に波及することを細かいデータから示していました。そして、ツイッター自体は大震災の起こった直後にピークを迎えますが、ブログの数は少し後からじわーと増えていって、安定的に続くということも言っていました。こういうアカデミックな雰囲気っていいですね。自分が学生的时候には誰かの発表を聴きに行くことをほんとに面倒くさいと思ってはいたのですが、最近は、自分の専門分野以外の高度な内容を聞けることを素晴らしいことだと思うようになりました。まあ、自分で調べるよりも耳で聴いた方が楽だという感覚でもありますけど。

下に講演の様子を写した写真を載せておきます。周りの人々が結構な勢いでパシャパシャ携帯で撮影していたので、許されるのかと思って自分もデジカメで撮影してみました。でも、設定を忘れていて、フラッシュをたいてしまい失敗しました。自分だけがフラッシュを使用してしまったので、スタッフの人に追い出されないかひやひやしながら聴き続ける羽目に…。小心中としては辛い時間でした。



講演のスライドです。著名人のつぶやきがどれくらい波及していくかを示しています。

この講演が終わってからは路頭に迷い、どこの講演を聴きに行こうかあたふたした結果、「ガンと生活習慣病の薬をめざす社会との連携」を聴きに行きました。でも、これは失敗でしたね。何も理解できませんでした。1時間半ぐらい耐えていたのですが、諦めて部屋を出てしまいました。諦めも肝心です。微妙な時間が残ったので、少しだけ「河に棲むイルカたちのネットワーク」を聴きに行きました。こちらはまったく興味がなかったのできっと面白くないだろうな一と思っていたら大間違い！ラスト10分しか聴けませんでした、楽しそうな内容でした。マレーシア

近海での石炭採掘によって河イルカが被害を被っているとか、インダス川の河イルカは乾季の渇水期に泳げなくなって、住民達が水のある場所に運んであげるとか、そんな地理につながる話をしていました。最初から聴いておくべきでしたね。ラスト 10 分に部屋に入る勇気がなかったので、部屋の外のテレビモニターで見っていました。外でも聴講できるとは思わなかったです。



講演会場の部屋の外にテレビが設置されていて、中の様子が分かります。

この講演で当日の講演は終了しました。その後、帰るときに受付で記念品のクリアファイルをもらいました。記念品とかに私は目がないので、「えっ、このような貴重な景品をもらえるのですか！？関西からわざわざ来た甲斐がありましたよ！」とは心の声です。そんな満悦を押し隠しつつ、駒場リサーチキャンパスを立ち去り、当初の目的である「高校生のための金曜特別講座」を聴講すべく、普通の駒場校舎に向かいます。急いで行ったのですが、スタート時間にやや遅れてしまい、まだ入れるのかな～と期待を込めて入り口を眺めていると、その雰囲気を知った窓口の学生二人にドアをゆっくりと閉められました。「立ち去りなさい」という気持ちを婉曲に表現したものとみなして、空気を読む私は寂しく肩を落としながら帰路につくことになりました。いずれまた「高校生のための金曜特別講座」に参加しようとは思っています。



記念のクリアファイル。キャンパスの見取り図になっています。



自然豊かなキャンパス